

# まえばし赤城山ヒルクライム大会

## 自治体情報 群馬県前橋市

人口 / 339,509人 標準財政規模 / 73,931百万円

**担当課** 商工観光部 観光課  
**電話番号** 直通 027-210-2189  
**実施主体** まえばし赤城山ヒルクライム大会実行委員会  
**関連ホームページ** <http://www.akg-hc.jp/>

**事業期間** 平成21年度から平成23年度まで

**関係施策分類** ②、⑤

## 予算関連データ

総事業費：41,000千円

名称	所管	金額(千円)
一般財源	-	23,500
参加料		14,000
協賛金等		3,500

## 施策のポイント

一般的なヒルクライムと異なり、山中だけでなく、赤城山への幹線道路や中心市街地を利用するため不可能と思われた小説上の大会を、地元や関係者、メディア等の注目協力のもと、赤城山利用者や宿泊者の増加を含め、安全、好評のうちに実現したこと。

## 施策の概要

### 1. 取組に至る背景・目的

群馬DCをきっかけとした観光まちづくり、DC期間内の目玉イベントとして実施し、参加体験や関連PR等により赤城山を中心とした観光振興を図るとともに、日本一のヒルクライムイベントを目指し、前日受付による宿泊客増加等の関連産業の活性化を図り、さらに本市の施策である「環境にも健康にも優しい地球温暖化防止対策としての自転車利用の促進」を推進し、自転車王国まえばし、環境都市の実現を進める。

### 2. 取組の具体的内容

幹線道路を自転車レースとして半日交通止めして利用することや市街地からスタートする大規模なヒルクライム大会は前例が無く、地元住民、警察やバス協会、経済界の関係者等、多くの皆さんの理解と協力のもと実施する必要があるため、90回以上の説明会を実施し、特に道路使用の警察関係者と協議を進めた。実施が決まった後は、大会PR、参加者募集、地元企業との協賛協力依頼、競技計画等の大会準備や運営等を図り、延べ1,000人のスタッフ連携のもと、大会を実施した。また、大会HPをつくり、ブログやツイッター対応を行った。なお、9月11日に実施したヒルクライム大会を含めて、「人と人とのつながり、人と街とのつながり」を体感する舞台として、9月3日から11日まで12のイベントをまえばしフェスタ“風”として実施した。

### 3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

目標を「募集する以上の参加者があり、参加者、地元、すべての皆さんが感動して、安全に終了し、継続的に実施できること」を目標とし、実施すること（手段）だけが目標にならないように注意した。

### 4. 現在までの実績・成果

2,500人募集して、北は青森、南は佐賀まで3,400人の応募があり、最終出走者2,168人となった大会は大きな事故無く安全に終了した。特に、沿道に多くの市民の方が応援に駆けつけ、参加者がそれを力に一生懸命走り、その姿に沿道の皆さんがさらに感動する、「人と人とのつながり」が実現できたことは、参加者のブログやツイッター等で表現され好評となった。また、大会の宿泊者は2,500人、参加者は12,000人おり、さらに、ヒルクライムの練習で連日200人から500人が赤城山を登っている。

### 5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

2008年から実施準備では、途中で共催予定の東京の事業者が撤退したが、地元の皆さんも喜んで継続的に実施するためには、市が主体となって計画運営することが必要であることを痛感して、対応した。さらに、関係機関との調整では、地元住民や関連団体への説明会の全会議録を作成し、コース沿線の状況や過去3年間の気象データ等により、繰り返し協議を行い、地元沿線の皆さんにも繰り返し説明会を行った。また、計画運営時はスタッフ1,000人の配置、連携等に苦慮した。

### 6. 今後の課題と展開

日本一のヒルクライム大会にするために、継続的に、斬新に、計画実施を行う。